

長崎の林業

小曾根星堂書



間伐材の島外出荷（船への積み込み作業）（新上五島町）

11

目次

●林政だより	松くい虫による森林被害……………2～3
●特集記事	四季を通し木々の経年美を楽しむ空間づくり 長崎市 造園業「長崎屋」 若杉 洋治さん……………4～5
●林業普及だより	内山林業合同会社 農林水産大臣賞受賞……………6
●地方だより	林業研究グループ「佐世保林業研究会」の活動について…7
●林業団体情報	林業も就職先として有りかなあ ～令和3年度農業高校生の就業支援事業～……………8
●センターだより	マダニ対策は正しい知識で万全に……………9
●お知らせ	木材サプライチェーンマネジメントシステム 「もりんく」のご紹介……………10
●紹介コーナー	趣味の竹細工 北村幸一郎さん……………11
●長崎の山と森	田代原風致探勝林（雲仙市）……………12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。



2021 No.794

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎県庁」のホームページ「目的で探す」→「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

松くい虫による森林被害

はじめに

長崎県は、海岸線の長さが北海道に次ぐ全国第2位で、海岸沿いにはクロマツなどを中心とした海岸林があります。このようなマツ林は、美しい景観を形成するだけでなく、防風・防潮・飛砂防止等の防災機能を有し、地域住人の生活環境の保全にとってかせないものであり、古くから地域住人に親しまれ



松くい虫による枯死状況（小値賀町）

てきました。

しかし近年、このマツ林が一斉に枯れてしまう被害が増加傾向にあり、深刻な問題となっています。

マツ枯れとは

梅雨の頃まで青々としていたマツが、夏を越す頃になると真っ赤に枯れる現象をマツ枯れと呼びます。このマツ枯れの原因は「マツ材線虫病」と呼ばれる伝染病です。この病気は、マツノザイセンチュウ（以下、線虫）という体長1mm以下の線虫がマツの中に入り込むことによって、通水阻害を引き起こします。この線虫を媒介するのがマツノマダラカミキリ（以下、カミキリ。（通称：松くい虫））です。このカミキリが線虫を体内に入れ、他のマツへ運ぶことによって被害が拡大します（図1）。

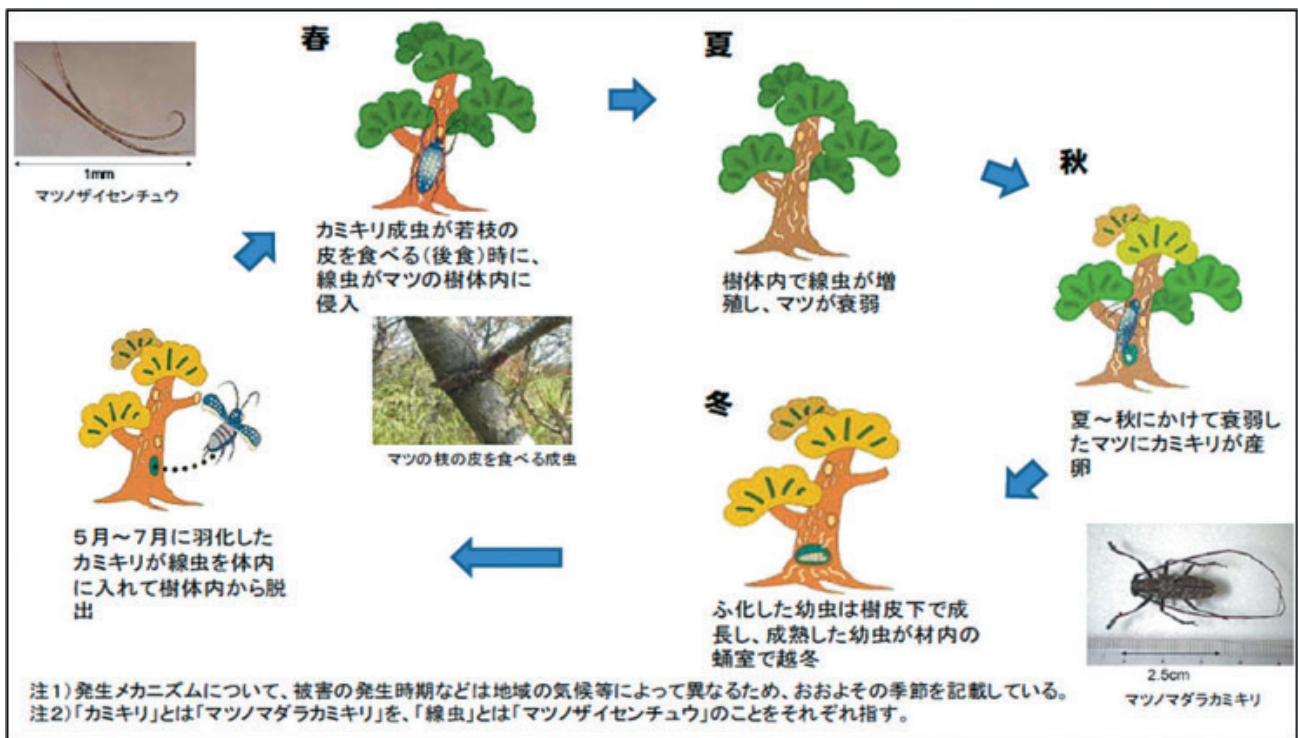
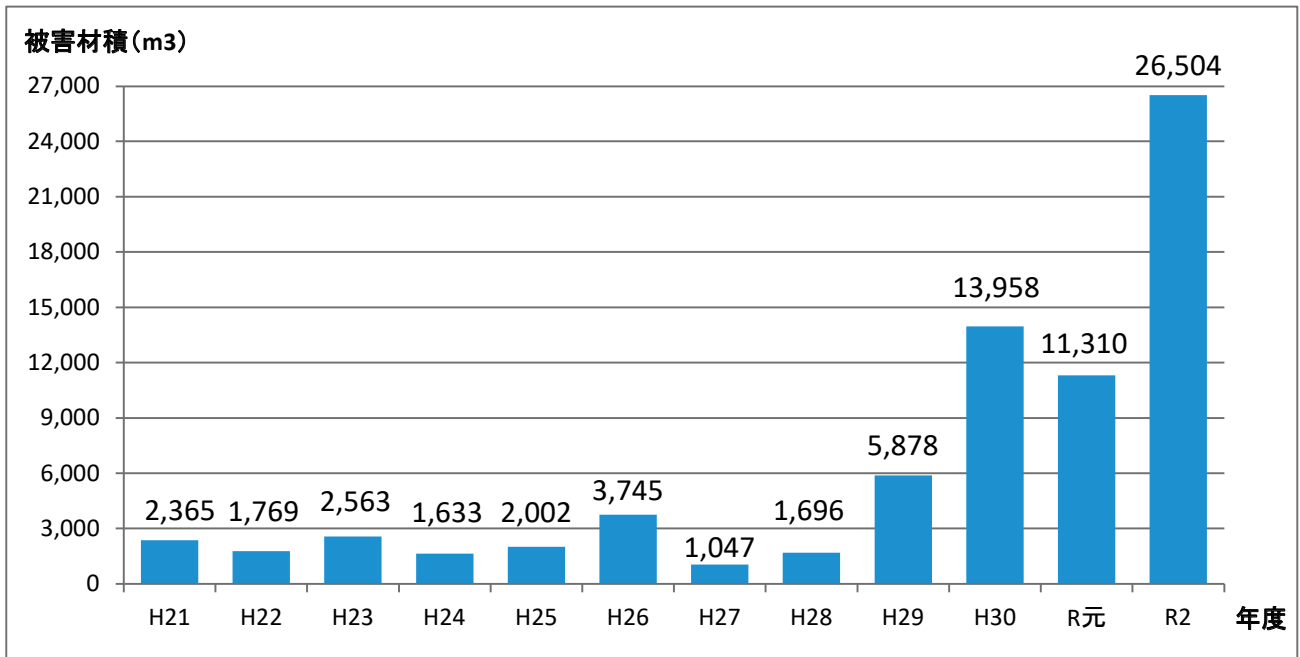


図1. 松くい虫の被害発生メカニズム



長崎県の松くい虫被害の推移

松くい虫被害と対策

長崎県の松くい虫被害は、平成21年度から平成28年度までは2,000 m³程度の低い被害量で推移していました。しかし、平成29～30年度にかけて、佐世保市宇久町と北松浦郡小値賀町で被害が急増し、令和元年度～2年度も小値賀町、平戸市、五島市において被害が拡大しています。

特に被害が甚大な小値賀町では行政、有識者及び住民の意見を聞き独自の「松林保全計画」を策定しました。その中で、松林に期待される防風、防潮機能等の重要度により、松林を次の4区分として、区分に応じた対策を計画に基づき行っています。

- ① 守るべき松林区域…海岸線であり、防風防潮林として松が必要な区域。

対策：伐倒駆除（衛生伐）、薬剤散布、樹幹注入

- ② 育てるべき松林区域…海岸線であり、防風防潮林として松が必要であるものの、激害により消失した区域であって、松を主体とした混交林化を図る区域。

対策：抵抗性松や広葉樹の植栽、保育作業、薬剤散布

- ③ 人為的樹種転換を図る松林区域…松ほどの高さは不要だが、防風林としての機能維持が必要な区域。

対策：更新伐（樹種転換）

- ④ 自然樹種転換を図る松林区域…防風林としての機能を維持する必要性が低い区域。

対策：一部区域を薬剤散布（枯損の分散化）

（注）伐倒駆除（衛生伐）：カミキリの幼虫が寄生する被害材を伐採・処理。

薬剤散布：カミキリ発生時の6月に食毒性殺虫剤を散布。

樹幹注入：線虫の増殖を抑制する薬剤を健全な松に注入。

更新伐：松の代替となる高木性広葉樹へ樹種転換。

おわりに

今後、被害が拡大した市町においては、重要度によって地区を区分し対策を行う必要があります。

県では、引き続き重要度・被害状況に即応した的確な対策を推進していきます。

（森林整備室 森林整備班）

【特集記事】



四季を通し木々の経年美を楽しむ空間づくり
長崎市 造園業「長崎屋」 若杉 洋治さん

「長崎屋」代表取締役 わかすぎようじ 若杉洋治さん（中）と まつもとつよし 松本剛さん（左）、たがわひさのり 田川尚典さん（右）

樹木と暮らす街「古賀松原地区」

長崎市中心部から車で20分程の場所にある古賀松原地区。長崎市東部に位置し四方を山に囲まれた緑豊かなこの地区は、昔から「植木と造園のまち」として知られてきました。九州で最も古い植木の産地と言われており約400年の歴史があります。古い記録によると、1690年頃に農家の副業として植木の栽培が始まり、1830年頃には貿易が盛んだった長崎の港から海外に向け輸出も始まりました。また各家庭にはその家で昔から大切にされている木があり、樹木に慣れ親しむ人々の生活の一部となっています。今回はこの古賀松原地区で造園業を営む若杉洋治さんにお話を伺いました。

造園業「長崎屋」の手仕事

若杉さんが営む造園業「長崎屋」は、1957年開業の「若杉松若園出張所」と1985年開業の旧「長崎屋」が合併し、2002年現在の

新しい長崎屋としての運営が始まりました。個人邸を中心にホテルやクリニックなど多数手掛けており、そのこだわりが詰まった庭は唯一無二の作品として大切に手入れされています。造園業者としては珍しく理想の庭作りに必要な竹垣や柵なども制作するそうで、そのこだわりゆえ、材料となる竹や樹木も自ら山へ行き、納得のいく良い物を探し求めることもあるそうです。



（左）山から切出した緩やかな曲線の竹は手すりに
（右）庭の樹木に自然に溶け込んだ手作りの竹垣

京都で学んだ「暮らしと共に息づく竹」

自身のスキルアップのため、20代前半で日本の庭園づくりの基盤ともいえる京都へ修行に出た若杉さんが学びの場として選んだのは京都で代々続く長岡銘竹。代表取締役の三島一郎しみらいちろうさんは「京の名工」に選ばれた日本でも有数の職人です。昔から竹に親しんできた文化のある京都には、竹を専門に扱う職人さんが多く今もその需要が絶えることはありません。若杉さんも三島さんの元で基礎から竹の知識と扱いを学び、竹垣や袖垣などの技術を身につけました。



(左) 吉野杉の皮を1枚ずつ張り合わせた杉皮壁
(右) 内と外の空間を分ける茶庭の竹垣

植木畑と樹木の「根回し」

庭木に使用する樹木は主に植木屋さんから仕入れますが、若杉さんは庭の雰囲気に合わせて山から掘り出した樹木を使うこともあるそうです。この掘り出す作業を「山取り」と言いますが、この樹木はそのまま庭に植えることが出来ないため一旦「植木畑」で新しい枝葉と根を作る作業を行います。



(左) 山取りされた樹木を育てる植木畑(株立ちの木)
(右) 枯れ枝や雑草などの手入れも欠かせない

現在、若杉さんの植木畑には30～40種類の樹木が育てられています。また1年を

いつでも木を動かせるよう落葉樹で2、3年、常緑樹で4、5年に一度掘り起こし根を切り麻布を巻き、麻紐で縛って体裁を整えます。この作業を「根回し」と言います。庭木として人気なのがいわゆる雑木で、スツとした見栄えのものより癖のある木の方が庭に馴染むそうです。「株立ちの木」と呼ばれ、1本立ちの木を根元から伐りそこから生えてきた枝木を育てたもので、枝同士がくっついていいる場合は小枝などを挟み適度な隙間を作ります。建物の壁や広さに合わせ自然な木の風合いに仕上げるのも大切な作業のひとつです。(左下写真：株立ちの木)

樹木の健康維持と間伐材の利用

今回、長崎市にある松森神社の御神木の剪定という大変珍しい現場に同行しました。台風など倒木による人的被害防止や御神木の健康維持のため大クスノキに登り剪定を行います。そもそも長崎には専属の職人さんが少なく、若い頃に川崎で高木剪定の修行をした若杉さんは貴重な存在です。



(左) 松森神社の御神木の剪定(高さ約25m)
(右) 間伐材を再利用した古い梅の木の支柱

庭木の手入れや、山師から譲り受けた間伐材も若杉さんの手にかかれば味のある庭の造形に様変わりします。ひっそりと山の中に佇んでいた樹木を時間と手間をかけて再生し、庭を彩る存在として命を吹き込む若杉さん。四季の移ろいを感じ、見る人の心を癒す木々は手をかけることで自然なままの美しさを保っているのです。

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

★ 内山林業合同会社 農林水産大臣賞受賞 ★



内山林業のみなさま

対馬市厳原町の内山林業（代表社員 ^{うちやま} 内山喜代太^{きよた}）さんは、令和2年度「ながさき農林業大賞」における長崎県知事賞の受賞に続き、令和3年度「第60回全国林業経営推奨行事」において、農林水産大臣賞を受賞されました。

今回は、受賞された内山林業の取組みについてご紹介します。

内山林業合同会社の林業経営の特徴

平成27年に法人化され、現在、役員1人、従業員8人で対馬市南部地域において、年間約5千㎡の木材生産や植栽により林業経営をされています。

特に、平成24年以降、地域の森林所有者19人から200haを超える森林経営を受託し、森林経営計画を策定することで、計画的な森林整備に努められています。



ハーベスタによる立木の伐採

また、高性能林業機械の導入により効率的な作業システムを構築し、生産量が5年前から倍増するなど飛躍的に増加しています。

特に近年は、主伐・再造林を推進するため、森林所有者へ働きかけ、持続可能な林業経営に取り組まれています。



主伐・再造林による持続可能な森林づくり

地域貢献の取組み

代表の内山喜代太さんは、平成30年から対馬木材業組合長を務めるほか、対馬市森林づくり委員会の委員を務めるなど、地域リーダーとして対馬の林業振興に寄与されてきました。また、将来を担う子どもたちへの森林環境教育を行うなど、後継者育成にも貢献されています。



子どもたちへ森林教育をする内山さん

このような取組みが波及するよう、地域林業の発展のために引き続き支援を行っていきます。

（対馬振興局 林業課）

地方だより

林業研究グループ「佐世保林業研究会」の活動について



佐世保林業研究会による木工教室活動

林業研究グループとは

林業研究グループとは、林業技術、経営、特用林産物づくりの研究や活動を地域の林業関係者が自主的に行うグループであり、長崎県内では11グループが活動しています。

今回は、県北地区で活動している「佐世保林業研究会」の活動について紹介します。

佐世保林業研究会について

佐世保林業研究会は、旧佐世保市内で活動していた林業に携わる者同士が相互研鑽を目的として昭和62年に結成し、現在は5名の会員がいます。

同研究会では、これまでシキミやハランの植付け、きのこ類の栽培、炭焼きといった特定林産物の生産を始め、森林整備活動、木工製品の製作など幅広く活動してきました。

近年の活動状況について

近年は、会長である岡幸夫^{おかゆきお}さんと息子の浩一^{こういちろう}さんが中心となり、子供達への木工教室の開催や地域の木工業者と情報交換を行いながら地域材の有効活用にご尽力されています。



研究会活動の中心 岡幸夫 会長 と 浩一朗氏

令和元年から地域の木工業者と連携して、ながさき森林環境保全事業（ふるさとの森林づくり）を活用し、県産のスギ・ヒノキや広葉樹の未利用材製品の開発を行い、多くの人にPRするための展示会を開催しています。

同研究会の作品は、この展示会をきっかけに佐世保市の特産品として、ふるさと納税の返礼品に登録されるなど大変好評を得ています。

このことは、先進的な取組として令和3年8月に林業研究グループコンクール九州ブロック実績発表会においても、長崎県代表として活動報告も行いました。

今後も木工教室の開催や地域材の有効活用を通じ、県北地域の林業・木材産業が持続可能な産業として成長していくために活動を続けていきます。

最後に今年の佐世保市ふるさと納税返礼品として3作品が登録されています。

研究会が丹精こめて手作業で製作する木工品を皆さんもぜひご覧のうえ利用を検討ください。（県北振興局 林業課）



佐世保産檜間伐材ちゃぶ台（直径800mm 高さ330mm ※天然素材のため木目・色味に差異があります※脚部は折り畳めます）

手触りがなめらかで美しく
経年の変化が楽しめ
家族と共に成長してゆきます

佐世保市ふるさと納税 返礼品への登録作品の1つ

林業団体情報

林業も就職先として有りかなあ ～令和3年度農業高校生の就業支援事業～

長崎県林業研究グループ連絡協議会では、令和3年度の高校生等の林業就業促進支援事業の一環として、ながさき森林環境税を活用して県立諫早農業高校環境創造科の2年生に対して、11月22日（月）に現地研修会を実施することになりました。そこで、これまでの取組とその成果について報告します。

1. 体系的な農業高校生への研修

森林・林業・木材産業への若者の就業を促すために、長崎県・長崎県林業協会・長崎県林業研究グループ連絡協議会が連携して、林業を専攻する県立諫早農業高校生徒に対して、1年生には学校の演習林や共有林等で大型林業機械の操作体験を、2年生には大型木材市場と大型木材加工施設見学などの研修を体系的に行っています。

2. 念願の大型木材加工施設・市場の見学

学校側としては大型施設が併設され、原木の流通、加工、製品の販売など木材のサプライチェーンを学ぶことができる佐賀県伊万里市での現地研修を実施したい意向がありましたが、県外ということで実現できませんでした。そこで、昨年からの協議会が、こうした学校側の強い要望を受けて研修を実施することとしました。

3. 研修で4K職場のイメージを払拭

大幅に機械化が進む作業現場を実際に体験して、キツイ・汚い・危険・給料が安いという4K職場のイメージは払拭されたように感じました。特に伊万里市の伊万里木材市場や中国木材(株)の大型木材加工施設をつぶさに見学した高校生は機械化・オートメーション化された様子にビックリした感じでした。ぜひ県内の森林・林業・木材産業を就職先の選択肢に加えて欲しいと思います。



伊万里木材市場で熱心に聞き取り



中国木材(株)の自動化に圧巻

4. 高校生へのアンケート調査

就業体験の研修を終えて高校生にアンケート調査を実施しました。40名の生徒は「入学するまで林業についてほとんど知らなかった」が37名。「林業に関わる仕事希望」が4名でした。研修を終えて、「林業に関わる仕事を就職先に選んでもいいかな」と答えた生徒が10名に増えました。また、「林業現場での大型林業機械操作体験や大型木材市場・大型木材加工施設の見学体験が将来の役に立った」と答えた生徒が全員だったことが成果でした。

5. 林業の現場へ女性参入

県立諫早農業高校では、林業を専攻する女性が毎年3～4名いて、大型林業機械操作体験など林業現場を経験して就業先として「林業も有りかなあ」と発言する女生徒も複数いました。林業現場は男性職場という概念は昔の話であり、機械化が進んだ現在では、大型林業機械の操作など細やかなセンスが求められます。女性が活躍できる産業になりつつあると大いに感じています。

(長崎県林業研究グループ連絡協議会)



大型林業機械の性能を体感

センターだより

マダニ対策は正しい知識で万全に

はじめに

今年も7月に県内1例目のマダニ感染症被害が報告されました。マダニは、国内では5属47種生息しています。すべてのマダニが重症熱性血小板減少症候群の原因となるSFTSウイルスや他の感染症を引き起こすウイルスを保持しているわけではありませんが、シカ、イノシシなどの棲息拡大によりマダニの棲息域も県内全域に広がっているものと推測されます。

試験地にいたのは

研究員は県内全域で試験研究のために山林に入る機会が多くあります。そこで実際に採集したマダニについて一部紹介します。

写真1はタカサゴキララマダニです。東彼杵郡内の試験地で採集した6mmはある大型のマダニです。



写真1 タカサゴキララマダニ (♀)

写真2はフタトゲチマダニです。諫早市内の試験地で採集したものです。

大きさ2～3mmでシカダニ群の筆頭種です。対馬、五島、県本土での家畜調査で多く採集されています。この2種はSFTSウイルスの保持が確認された種類でもあります。

これらは春から秋にかけて活発に活動して



写真2 フタトゲチマダニ (♂)

いますが、季節ごとにマダニの種類は変わるので、マダニは年中活動していると考えて下さい。

効果のある忌避剤

現在、マダニに対する忌避効果が認められている薬剤成分は、「ディート」と「イカリジン」の二つのみです。商品の注意書きで、このどちらかの成分が含まれていること、適用に「マダニ」とはっきり記載されていることを確認する必要があります。忌避剤として、家ダニ用や園芸用ハダニ対応のものを使用している方がいましたが、これはマダニ対策にはなりません。

被害に気づいたら

咬まれていることがわかったら、早急に病院で診断治療を受けましょう。発症するまでに潜伏期間があるので油断できません。労災対象となる場合もあります。山林を仕事場とする職場では被害を受けた後の手順を確認しておきましょう。正しい知識があれば正しい処置ができます。山林作業での安全管理を万全にお願いします。

(長崎県農林技術開発センター)

お知らせ

木材サプライチェーンマネジメントシステム「もりんく」のご紹介

山から原木が伐り出されてから、工場で製品に加工され、住宅などに使われるまで、木材は多くのプロセスを経過します。川上から川下まで、様々な林業・木材産業関係者間のマッチングを行い、木材流通の円滑化を支援するシステムが、「もりんく」です。

長崎県内の事業者も登録されていますので、ぜひ検索してみてください。

また、林業・木材産業関係者の方々の積極的なご登録もお願いします！

(長崎県地域材供給倍増協議会)

全国の木材関連事業者をつなぐマッチングサイト 「もりんく」のご案内

森+Link(つなぐ)=
MOLINK
もりんく

<https://molink.jp>

川上から川中・川下まで、林業・木材産業のサプライチェーン（素材生産・流通・加工・製造・販売…）を効率化し、林業の成長産業化などを図ることを目的に、ICT技術を駆使して開発した木材SCM支援システムです。原木や木材製品を取り扱っている事業者の検索や、事業者間の需給情報の共有や取引でのコミュニケーションの円滑化を支援し、マッチング促進により木材流通全体の最適化を目指していきます。

●登録機能

事業内容や製品等を登録すれば、もりんく上で、PRできる。

●検索

地域や業種、製品など、詳細な条件で検索できる。

●フリーワード検索

フリーワードで全国の木材関連事業者を検索できる。



●業務支援・統計資料

業務支援ツールの利用、需給動向に関する統計資料や入札情報入手できる。

●掲示板

新製品などの売りたい情報や買いたい情報を投稿できる。投稿記事の検索もできる。

●広告機能

登録事業者を業種タグやロゴとともに表示。

登録対象

木材産業・木材流通に関連する事業者の方なら、どなたでも登録いただけます。

- ①木材生産・流通関連（素材生産事業者、原木市場、苗木生産、運送等）
- ②木材製品を生産・加工（製材・集成材・合板・チップ・プレカット工場、家具製造、バイオマス等）
- ③住宅・建築関係（設計者・工務店、住宅メーカー等）
- ④小売店・DIY等（木製家具・工芸品・文具・玩具等）
- ⑤関連団体（木材・建築団体、行政、研究機関等）

個人の方を含め、未登録者の方でも、閲覧、検索機能はご使用できます。

一般財団法人日本木材総合情報センター もりんく事務局 ☎ 03-3816-5595 ✉ molink@jawic.or.jp

木材 SCM 支援システム

MOLINK
もりんく

林野庁補助事業により開発されました

まずは事業者登録から！

Web 検索または右の QR コードからもアクセス可能

もりんく

<https://molink.jp>



紹介コーナー

きたむらこういちろう
趣味の竹細工 北村幸一郎さん



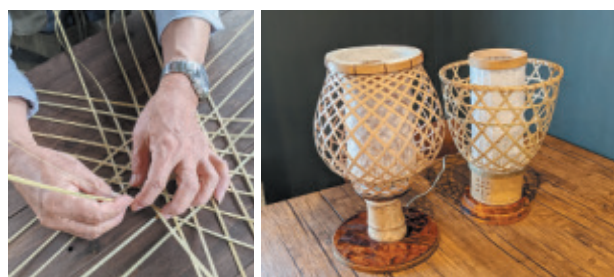
(左) 竹籠バッグ (右) 竹で編んだ繊細な指輪

竹を使った製品で身近なものと言えば、竹籠やザル、竹とんぼ等の小さな竹細工を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。近年気軽に手に入る日用使いの竹製品を取り扱う店舗が減り、農漁業以外での竹製品はどちらかと言えば貴重な工芸品となりました。

そんな中、もっと気軽に竹製品に親しんで欲しいとの想いで作品を手掛ける方がいらっしやいます。大村市在住の北村幸一郎さんです。デザイン関連の仕事をして定年後、趣味のひとつにでもと習い始めた竹細工。仲間と楽しく学び、技術を身につけるうちにオリジナル作品への意欲が徐々に沸いてきたそうです。昔ながらの製法を守りつつ独学で新しいデザインを取り入れ

作った竹籠バッグの評判が大変良かったそう。緻密にそして美しく編まれたバッグは竹細工仲間からも一目置かれる存在となりました。竹を細く割り削って作り出される竹ひごは1日に多くても60本が限度。100本前後使って編むため1点を仕上げるのに約3日かかります。北村さんは現在、新作を考案中だそうで竹で編んだ指輪やイヤリングなどのアクセサリが次の候補に挙がっていました。どのような素敵な作品が作り出されるのか、今後がとても楽しみです。

(NPO 法人地域循環研究所)



丁寧に編み込まれる作品は全てが一点もの
右は竹と和紙で作られたランプシェード

趣味の竹細工 北村幸一郎さん

住所：大村市久原 2 丁目 698-27
電話：090-7390-0659(注文は要問合せ)

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和3年 10月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m ³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	37,100	少ない	多い	多い
	16~18	小曲り	35,300	少ない	多い	多い
	20~22	直	27,200	少ない	多い	多い
	20~22	小曲り	25,500	少ない	多い	多い
	24~28	直・小曲り	28,000	少ない	多い	多い

【スギ】

令和3年 10月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m ³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	18,000	少ない	多い	多い
	16~22	小曲り	17,000	少ない	多い	多い
	24~28	直	18,000	少ない	多い	多い
	24~28	小曲り	16,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

田代原風致探勝林（雲仙市）



田代原高原と平成新山（林野庁HPより）

田代原風致探勝林は「奥雲仙」と呼ばれる日本初の国立公園内に位置する標高 625 m 前後の高原地帯で、「日本美しい森 お薦め国有林」※として、全国 93 箇所の中の 1 カ所として選定されています。

※優れた自然景観を有するなど、観光資源としての潜在的魅力が認識されるレクリエーションの森として林野庁が選定する。

周辺環境

田代原風致探勝林周辺は、東に鳥甲山（標高 822m）、南に九千部岳（標高 1,062m）北西に吾妻岳（標高 1,062m）と、3つの山に囲まれています。自然探索のための情報センター「田代原トレイルセンター」や、夏場には自然に包まれる感覚と本格的アウトドアが気軽に楽しめる「田代原キャンプ場」が整備されているので、自然観察やトレッキングなども楽しむことができます。

ミヤマキリシマと保全活動

田代原風致探勝林では、ヤマボウシや紅葉、霧氷やミヤマキリシマ等、四季折々の風景を楽しむことができます。特にミヤマキリシマの花が、見ごろを迎える5月下旬～6月中旬

には多くの観光客が訪れます。

かつては雲仙地域の山間部では放牧が盛んで、ツツジの一種であるミヤマキリシマは葉に毒があるため、牛や馬に食べられず、他の植物による生育阻害を受けることなく群落として生育していきました。しかし、最近は放牧地の減少と共に群落も減少していますが、唯一残された貴重な放牧地がこの田代原風致探勝林内に存在しています。現在では、平成 17 年に設立された、「NPO 法人奥雲仙の自然を守る会」が中心となって、地元住民や長崎森林管理署、雲仙市などの行政と連携し、ミヤマキリシマの保全活動として国有林内の樹木の除去や修景伐採、草刈り等を行っています。田代原の風景は、放牧による牛と地域の有志の力によって守り受け継がれています。

（NPO 法人地域循環研究所）

長崎の林業 11月号 第794号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2990
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp